

令和7年度 第2回学校運営協議会 会議録

みよし市立黒笹小学校

1 開催日時 令和7年10月30日（木） 9：45～11：45

2 開催会場 本校校長室

3 参加者

鈴木 久枝 様（黒笹保育園長）
大門樹久世 様（人権擁護委員）
川上 治美 様（青少年補導員）
芹川 友紀 様（民生児童委員）
河隅 貴子 様（青少年補導員）
倉田 琴美 様（民生児童委員）
横本 祥平 様（PTA会長）
金子 久江 様（地域コーディネーター）

（学校側） 校長 江上 俊郎 教頭 中林 優

4 日程

- （1）日程説明 9：45～9：50
- （2）授業参観 9：50～10：35
- （3）協議会 10：35～11：45
 - ・ 第1回協議会以降の活動報告
 - ・ 今後の動き（本年度、来年度）
 - ・ 令和8年度に向けた動き

5

（1）第1回協議会以降の活動報告

～令和7年度 みよし市立黒笹小学校グランドデザインに照らし合わせて～

① 子どもの笑顔のために

- ・ 10/24（金）に研究発表会を行い、「たい！」を引き出す授業について多くの参観者に観ていただいた。参観者アンケートを見ると、「振り返りから本時のめあてにつなげる」、「個のめあてを立てる」、「ICTで一気に意見を集約し他者参照する」といった本校の取組を高く評価していただいていることが分かる。これらを本校の強味として、子ども同士の関わり合いを深める授業をさらに推進していきたい。
- ・ 今後の取組として、デジタル・シティズンシップ教育の推進を図るべく、市教研学習情報部会と連携して本校で授業研修会を実施する。

② 子どもの力を生かして

- 学びをつなげる異学年交流
 - ・ 校内掲示での交流
 - ・ 今後の取組として、清掃チームを基本とした子どもたちによる避難訓練の実施（1/9（金）予定）
- 1年間を見通した委員会活動
 - ・ 子どもたちのアイデアを生かした活動
保健委員会による動画作成、図書委員会による読み聞かせ、音楽委員会によるスマイルソング、運営委員会によるレターウィークや異学年ペア交流
- ③ 家庭・地域と連携して
 - 学校運営協議会の立ち上げ
 - 地域学校協働活動の充実
 - ・ 野菜づくり名人による出前授業（1，2年）
 - 地域教材・外部講師を活用した教育活動
 - ・ 棒の手保存会出前授業（3年）
 - ・ トヨタ自動車 地球温暖化を防ぐための出前授業（4年）
 - ・ トヨタヴェルブリッツ タグラグビー体験会（6年）
 - ・ トヨタ車体 モノづくり魂浸透授業（6年）
 - ・ 愛知県パラアスリート学校訪問授業（5年）
- ④ 職員が力を合わせて
 - 職員同士の学び合いによる現職研修
 - 職員がチームとなって指導・支援にあたる
 - ・ SCの助言を生かす子どもを語る会
 - ・ Q-U・学校生活アンケート、活用研修会
 - 専門的な知見、カウンセリングに基づく確かな支援
 - ・ SC・学びの森専門相談員との連携
不登校の未然防止の観点から、学校がまず専門相談員に相談する形を増やす
 - 互いの気づきを生かしながら、日々取り組む業務改善

（2）今後の取組

<今年度>

- 和の文化体験（5年）12月
地域コーディネーターが講師を紹介してくださり、新規の講座が増加
- ライフプランニング授業（6年）1月
ソニー生命による出前授業

<来年度>

- 米づくり体験（5年）
みよしの自然環境を守る会の協力により、地元の田んぼを活用

（3）令和8年度に向けた動き

- 教科担任制・学年担任制とそれに伴う教育課程の改訂

- ・ 多くの眼で子どもを見守る
- ・ 毎日学年会で情報交換を行う（いいところ見つけの活用）
- ・ 午前中5時間授業、40分による授業づくり、帯時間と組み合わせた60分授業
- ・ 日課表の検討により曜日による日課の違いをなくし、「分かりやすく」
- ・ 下校時刻は火・水・金が20分早くなる
- ・ 低学年下校については、高学年の下校まで図書館で待つことができるよう、みらい応援団に見守りを依頼する。あくまでも自分で学習するか、本を読む。
- ・ 目黒区の午前5時間制に関する取組を参考に、授業デザインを検討していく。本校から研究主任が視察に行く。また兵庫県にも校長、教務主任、研究主任が視察に行く。
- ・ 40分の授業デザインを研究していく。ICTを有効活用し、子どもたちの意見を一気に集約することで時間短縮を図ることができる。
- ・ 11月下旬には、保護者に文書で方針を伝え、2月の授業参観までに質問・意見を集約し、回答をまとめたうえで説明会を行う。

（４）協議内容 ・：意見、質問 ○：評価できる内容 △：課題やアイデア
〔新教育課程について〕

- ・ 児童クラブの兄弟下校は、1，2年生は上級生の兄姉が児童クラブに在籍していないと利用できないことになっているが、来年度からは兄姉がいない1，2年生も図書室で待つことができるということか。
⇒ そうなります。
- ・ すでに来年度の児童クラブの募集が始まっている。12月には入室者が決まる。この説明を聞いた保護者が、「それなら児童クラブじゃなくてもいいのでは」と思う人がいるのでは。
⇒ スケジュール的にはそうなってしまいます。
- ・ 1，2年下校で図書室に残る子と下校する子がいる。そうすると班の人数が少なくなって、一人で帰る子が出てくるのでは。
⇒ 人数は分からない。近く子ので一緒に下校し、できるだけ固まって歩くようにする。交通安全推進員さんが二人体制で付いてもらえるとよい。
- △ 地域の人たちにも、下校時刻が早くなることを周知し、下校時間帯に合わせて地域の人が散歩したり、犬の散歩に出かけたりして見守りしてもらおうとよい。
- ・ 図書室に残った子は、外で遊んだりはしないのか。
⇒ ボランティアの方をお願いするうえで負担が大きくなるのではないかと考える。また、放課後子ども教室や児童クラブとの違いが分かりにくくなる。費用もかからず、楽しく過ごせる場所になると意味合いが変わってくる。すみ分けをしたい。
- △ 図書室で読み聞かせをしてあげるとか、宿題をやるとかして、家に帰ってから遊ぶ時間が多くなるようにしてあげるとよい。40分程度の待ち時間だし。
- ・ 図書館でふざけたり、走り回ったりして怪我があったときは学校の保険が適用

されるのか。

⇒ 保護者には事前に、お子さんに対して「本を読んだり宿題をしたりして待つ」ということを伝えてもらうようお願いをする。怪我の責任はこちらでは負えないことを伝えておこうと思っている。

- ・ 図書室に残る児童は数名で、そこにボランティアに付いてもらうというイメージで話をしているように受け取れるが、もし30人くらい来たら、誰がどう管理するのか。教員であれば、資格があつて子どもを管理することになるが。この時間帯は、学校の時間なのか、どういう時間の扱いになるのか。

⇒ 学校にはいるが、実際には一度下校という形をとるので、学校管理下ではないという扱い。ただし、登下校時と同様にスポーツ振興センターの保険は適用となるという状況。これも保護者に説明しながら進めていく。児童クラブや放課後子ども教室のように費用を払って行っていることとは違うことを明確にしておきたい。

△ 「緊急の避難所」というイメージにしておくといい。どうしても親が帰って来なくて一人になってしまう。緊急なので、そこに居させてもらいたい、という感じ。

- ・ 木曜日は1～4年生が下校となると、4学年分の子どもの希望者が図書室に残るのか。

⇒ 木曜日はこれまでも14:45の下校だったので、来年度、学校としては図書室に残ることを考えていない。今までの下校時刻と差が出てくる曜日のみ考えている。なので、火曜日、水曜日、金曜日となる。

- ・ 朝の読み語りが、月に一度8:30から行われている。来年度は8:30から授業開始となっているが、どうなるのか。

⇒ 午前5時間授業の実施のためには、朝の帯時間は設定できないので、帯時間は昼に設定している。読み聞かせは、昼に実施してもらえないかと考えている。

※この件については、運営協議会終了後、読み語りボランティアの方と確認し、これまで通り、月に一度金曜日の朝に読み語りを実施してもらう方向で調整

- ・ 朝の図書室の利用はどうなりますか。

⇒ 図書室については、登校後から朝の会開始までは開館したいと考えている。

- ・ 朝の会が8:20開始だと、予鈴が8:15に鳴ると思うので、利用時間はわずかということか。

⇒ そうなる。

- ・ なかよしタイムも15分間なので、予鈴が5分前になると、実質10分間集中して遊ぶということか。

⇒ そうなる。家に帰ってから遊ぶ時間が長くなる日課なので、どこで遊ぶかという選択。学校でとことん遊ぶということだと、日課は変えられない。

- ・ 火曜日、水曜日、金曜日に図書室に残る子については、保護者から紙面で申し込みなどをもらうのか。

⇒ 前月にFormsで申し込んでもらい把握したい。

- ・ ということは、いつもは下校しているが、今日だけ都合が悪いので図書室に残

してほしい、というお願いには対応するのか。

⇒ 基本的には前の月に申し込みしていただいたものだけ。ただそういったお願いが、どのくらいの人数になるかによって検討の余地はある。欠席連絡システムで把握しきれんかどうかがポイントとなる。

- ・ 図書室には教員は誰一人付かないのか。ボランティアのみか。

⇒ できればそういう形にしたい。あとは管理職が行くことは可能。他の教員はすぐに打ち合わせを始めてほしい。図書室の対応をしてしまうと打ち合わせの時間が減ってしまう。

- ・ この日課はみよし市全体で実施するのではなく、黒小が先行して実施するということか。

⇒ そのとおり。市教委もまずは本校がモデル校として先行して実施してみしてほしい、となっている。

- さまざまな利点があり、また先生たちの働き方改革にもつながるということで、これがよい方法なのだと思います。細かいところは、いろいろな方面で調整していくことが大切。

- ・ 他校では、下校1と下校2の間の見守りはどのようにしているのか。

⇒ 児童クラブと放課後子ども教室のみ。緑丘小では、夏季の熱中症対策として検討しているということは聞いている。

〔授業デザインについて〕

- △ 先日の研究発表会で単元デザインや授業計画を立てて授業されているのを見て大変だなと思った。単元デザインどおりに授業がなされたかどうかについては、先生たちは自己評価しているのか。

⇒ 行っています。先生たちも振り返りをしながら、改善や修正をしながら単元を進めている状況。

- △ 児童が分からないところがあっても素通りされることがあるのではないかと想像するが、ICTを活用して、例えば、子どもたちがもう少し聴きたかった、もう一回勉強したかった、というタイミングでボタンを押すと、後から授業の統計データとして何分のところで分からない子が集中しているとか、子どもからの反応が一番分かりやすいので、そういったアクションができるような機能を導入してはどうか。

⇒ 振り返りに出てきたり、ICTだとそれが蓄積できるので、そこに焦点を当てていくと、みんなが分かるようになるので、そういった活用ができる機能があれば行っていきたい。

- 先日の研究発表を見させていただいて、継続は力なりと感じた。どの学年を見ても、わくわくが授業にあふれていた。子どもたちも生き生きしていたが、掲示物が季節を感じるもので、先生たちに余裕があってそういった掲示物をつくる気持ちが出てくるのだと思った。学校全体で先生たちをサポートしながら、働く先生たちが穏やかに前向きに働いているから、学校全体で掲示物で雰囲気をつくっているところに感心している。

- 児童クラブでも4人しかいない6年生が中心となり、前に立って、子ども会議と題して週目標を決めている。それまでは、職員が週目標を決めていたが、それを自分たちで決めるようにしことが4人のおかげで定着してきた。それを見ていた5年生が、私たちも来年は自分たちがやるんだ、と思っている。研究発表会を見て、「～したい!」という気持ちと、振り返りが大切だと思った。児童クラブでも、その日にあったいいことを振り返る機会を9月から実施している。やはり振り返りは大事だなと感じている。子ども会議だけでなく、掲示物の作成も6年生がしっかりやってくれていて、できる6年生だと感じている。

〔米づくりについて〕

- 地域の特性を生かして行うよい取組である。私たちは米なしでは生きていけないのに、子どもたちは米についてあまりにも知らなさ過ぎるという状況がある。自分で作ってみるとより身近に感じられる。今後の日本を背負っていく子どもたちには大切なこと。そして誰かがやらないといけないことで、そうしないと自分たちは食べられないということを身をもって感じてもらう大きなプロジェクトで期待している。
- ⇒ イメージとしては、中庭で稲架掛けしたり、足踏み式の脱穀機で脱穀したりできるとよい。
- ・ 脱穀機がある家はあるか。
- △ 黒笹地区には米をつくっていたところが何軒かあるので聞いてみるとよい。何台かあると子どもたちが体験できる。

(5) 承認

- 全会一致で承認

6 今年度学校運営協議会の予定

第3回学校運営協議会 令和8年 2月 5日(木) 9時45分～

7 添付資料

- ・ 学校運営協議会報告書【様式第4号】